



とおつおうみかい 遠淡海会だより

発行
社会福祉法人遠淡海会
〒432-8005
浜松市中央区神ヶ谷町 6611
電話 053-485-6320
FAX 053-485-6321

朝ドラ『あんぱんまん』に想う

浜松乳児院長 水谷暢子

令和 7 年度前半の朝ドラは、漫画家やなせたかしがその妻暢と『あんぱんまん』を生み出す半生を辿ったドラマでした。

昭和 52 年、当時東京杉並区の保育園に卒論の関係でボランティアに通っていた時、保育園児の付き添いでアンパンマンのミュージカルと一緒に観に行く機会を得ました。

今でこそこどもたちに大人気の『あんぱんまん』ですが、当時こどもを卒業していた自分はその良さが十分わかって鑑賞していたとはまがりなりにも言えません。

この『あんぱんまん』に関しては、テレビで放映されたり、ビデオや DVD で鑑賞出来たりするのを、ある時、「乳児院の子は TV で『あんぱんまん』ばかり見ている。わが（里親）家に来ると、ニュースやほかのものをみるようになる。」と社会的養護のほかの場所では、あまり好ましい題材と思われていなかつたのかと危惧される発言がある講演で伺ったことがあります。お臍が曲がっている自分は、漫画が低俗でニュースは高尚と言われているような気がしました。

さて、この『あんぱんまん』がこの度の朝ドラで、戦時下を過ごしたやなせ夫妻の「逆転しない正義」の追求の先のヒーローだったことや自分の顔を、お腹をすかせた人に食べさせる自己犠牲とも言える深い含みを持たせたものだったことがわかり、ミュージカル鑑賞当時の自分に教えてあげたい気持ちです。

戦争時に限らず、人間の子は空腹という生理的欲

求が満たされて、その上の安心安全欲求、その上の依存欲求や所属欲求を求めていくものです。ネグレクト家庭で育った、十分に食事を与えられないで育ったこどもはその上の欲求段階を獲得できません。

平成 2 年に統計取りの始まった「虐待相談受付件数」は右肩上がりで増加し続け、今や 12 万件以上になっています。35 年の時を経ても変わらぬ社会的養護児の状況に胸が痛みます。先日も 2 歳児を虐待していたと逮捕された父母がいましたが、その子の体重が 6Kg という報道に愕然とさせられます。児童福祉法が最善の利益と求める安心安全な「家庭」はここにはありません。毎年、11 月に全国の鎮魂集会でこの 1 年間の間に虐待で亡くなったこどもの名前が読み上げられますが少しも減りません。

やなせ夫妻が訴え続けた「逆転しない正義」では、「正義」を振りかざし日本国民を第二次太平洋戦争に駆り立てた当時の教育や統制された思想への反省が伺えます。また、戦争に勝ち負けなどなく、体験者全員のトラウマになるのは間違いありません。今も続く、ウクライナへのロシア侵攻やイスラエルとガザの民族的な紛争を第二次太平洋戦争から 80 年も経ち、唯一の核被爆国である日本国民はどう捉えてどう解決への支援をしていけばいいのでしょうか。

『あんぱんまん』の顔を焼きながら、どこへ運んでいったらいいのか、地球上のすべての人が考えないといけないようです。

選挙で負けたからと、責任取りに自民党総裁の首替えを少し前にやっていた日本の国は平和ボケしそぎなのではないでしょうか。6 人に 1 人が貧困で、今日の一食を食べれないこどもがいることを忘れてはなりません。



各施設の話題

特別養護老人ホーム神久呂の園



◎特養 秋祭り (R7.10.22)

西館 2 階ホールにて秋祭りを開催しました。みなさんと一緒に盆踊りや阿波踊りを踊り大いに盛り上がる楽しい会となりました。



◎デイサービス 運動会 (R7.10.15)

今年の運動会でも、紅白のチームに分かれて玉入れ合戦や輪投げなどを行い日頃の機能訓練の成果を発揮しながら、元気いっぱいに楽しく盛り上りました。

浜松乳児院



◎お楽しみ会 (R7.8.19)

お楽しみ会でかき氷をしました。職員が氷を削り、こどもたちはイチゴ、メロンなど好きなシロップをかけました。口に入れると冷たさに驚きながらも「つめたい」「おいしい」と歓声が上がりました



◎秋の遠足 (R7.10.7)

お天氣にも恵まれ、浜松市動物園へ遠足に行ってきました。園内を歩いて回り、間近で見る大きな動物に大興奮。楽しい一日を過ごしました。

若宮こども園



◎ボーリング大会（2歳児）(R7.10.1)

「ぼーりんぐへいったよ！」と、球を転がすポーズを見せてくれた事をきっかけにたけ、ゆりぐみで始まったボーリング。椅子を並べ、観客席も設置し、スコア表も作ってボーリング大会が行われました！！今では、毎日のように自主的にボーリングの練習をしているたけ、ゆりぐみの子ども達です。



◎芋ほり（3、4、5歳児）(R7.10.21)

春に植えた苗のお芋掘りにきく、ばら、ふじぐみの子ども達が行つてきました。たつ子さんのお話を聞きながら一生懸命力いっぱい、土を掘り起こしてお芋が顔を出すと大喜びでした。小さな幼虫に夢中になる子も…。

お芋はお給食やおやつで美味しいいただきました。

和合こども園



◎スイカ割り (R7.7.9)

こども園や子育て支援ひろばによく来てくれるおじいちゃんが、「スイカ割りをやろう！」と大きな大きなスイカを持って遊びに来てくれました。すいかはご近所の方が、こども園の子どもたちに、と譲ってくれました。割れたスイカは、みんなでテラスに座って食べました。



◎どんぐり拾い (R7.10.9)

ようやく暑さが和らぎ、戸外で思い切り遊べる日が増えました。1歳児クラスの子どもたちは、自分で模様を付けた小物入れを下げて、どんぐり拾いに出かけました。落ち葉を踏む音を楽しんだり隠れたどんぐりを夢中で拾っていました。

ふあーろ



◎ふあーろ温泉（感触感覚遊び）（R7.7.8-7.11）

毎年の恒例「ふあーろ温泉」が今年も開店です。 「氷」を手で温めて溶けていく様や削って雪のようにしてから、それを丸めてみたりして存分に実験をして、キンキンに冷たくなった手を温めます。 たらいにお湯を入れて手浴、他のたらいには足湯の用意をして、入浴剤を入れて香りと温かさを友達と共有して「あったかいね」「良い匂いだね」等、真逆の感覚から沢山の表現が引出されました。

◎流しそうめん（感触感覚遊び）（R7.8.5-8.8）

今年の夏も外で流しそうめんが出来ない位、猛暑続きでした。ふあーろでは夏野菜の色や触り心地、お腹を切ったら？等、観察をたっぷりしてから漬物にしたり、そうめんと一緒に流したりして、楽しみました。そんな雰囲気の中では、食べられない野菜が食べられたり、少食な子は沢山食べられたりします。お箸に挑戦する子もいて、心もお腹も満タンです。

今後の課題 「施設の改修か建て替えか ~特別養護老人ホーム神久呂の園・浜松乳児院~」

理事長 水谷 博

1989年9月に定員50人で特別養護老人ホーム神久呂の園を開設し、2002年4月に定員を80人に増員。従来型特別養護老人ホームで居室は4人部屋が中心。築36年が経過し建て替えるのか大規模修繕にするのか検討すべき時期に来ています。

建て替えには10億円以上を要し、自前で用意するには大きな金額であり、また、現在では、一般財源化する前のような手厚い補助金は望めない。建て替え後、個室ユニットにすることは必ずしも求められないが、多床室の需要があるのは事実で改修して2～3人部屋にするという選択肢もあります。

仮に建て替えたとして、介護職員をどう確保するか、この問題も大きい。個室ユニットにするとより多くの介護職員を確保しなければならない。現在、外国人の方も勤務しているが、人材確保はとても厳しい。建て替えにしろ大規模修繕にしろ、職員の確保は喫緊の課題。また、現在、入所待機者はいるが、2040年以降は減っていく見込み。

1974年開設の浜松乳児院は築51年を迎え、これまで増築と部分改修で対応してきた。浜松市は0～3歳のこどもの里親委託率が高く、浜松乳児院は定員を当初の20人から15人に減らしたが、暫定定員が続いている。乳児院は里親の後方支援を担うことも含め、地域の子育て支援を求められているので、建て替えるにしてもそうした要請を踏まえないといけない。